八田神明社の境内に鎮座する旧鳥居松小学校の奉安殿

富 中 昭 智

1 はじめに

神社の境内には、本殿の傍に小さな境内社がいくつか祀られていることが多い。春日井市内にある神社にも、天王社や金刀比羅社などたくさんの境内社がある。それらを調べているときに右の写真のような興味深い建物があることに気がついた。場所は八田町にある神明社の本殿に向かって左側。瓦葺きの比較的大きく立派な躯体である。正面の扉の上には菊花紋章が掲げられていて、屋根の破風下にある矢切りの位置にデザイン化された「鳥」の字が見える。よく目にする境内社とは容貌が大きく異なるのだ。

八田神明社の境内にある建物

そこで、今回は次のテーマを追求することにする。

この建物はいったい何か？

菊花紋章と「鳥」の紋章は何を表わしているのか？

---

2 石板の説明文

建物の周囲を見てみたところ、すぐ脇に「奉安殿の由来」という石板が設置されていることに気がついた。少し長いが、この石板に書かれていることをそのまま書き出してみる。

奉安殿の由来

奉安殿は、昭和十三年（一九三八）鳥居松小学校庭内に、昭和天皇の真影と教育勅語を奉安する社殿として建立された。

戦後、連合軍の進駐により解体の運命にあったものを、歴史文化財保存の目的から八田連区の有志により、昭和二十二年（一九四七）夜行運搬され八田神明社境内に安置された。

以後老朽化に伴い平成十七年（二〇〇五）大修繕を行い今日では、神明社大神楽屋台が納庫保存されております。

平成十七年十月吉日

氏子総代役員

井口　章　　髙橋　勉　　仲野龍雄　　鬼頭　修　　山田富士夫

上八田町神楽保存会

祈祷久夫　　成田榮一

下之段神楽保存会

長縄鎣一　　長縄重男

つまり、これは旧鳥居松小学校にかつて設置されていた「奉安殿」とのこと。それを戦後、昭和22年（1947）にこの八田神明社の境内社として移築してきたことがわかった。

3 奉安殿とは何か？

「奉安殿」とは、「太平洋戦争終結以前、学校で、御真影や教育勅語謄本を不敬のないように保管するため校舎から離して設けた特別の建物」[1]のことである。御真影とは天皇・皇后の肖像写真のことであり、教育勅語とは「国民教育の根本原理を、法令ではなく“勅語”（天皇の意思表明）という形式で国民に示したもの」[2]である。謄本とは原本の内容を全部を書き写した書類のことであるので、315文字の一字一句すべてをもらしてはならないものだった。そして〈小学校祝日大祭日儀式規定〉[3]に制定された御真影への拝礼、教育勅語奉読、君が代斉唱などが行われた。

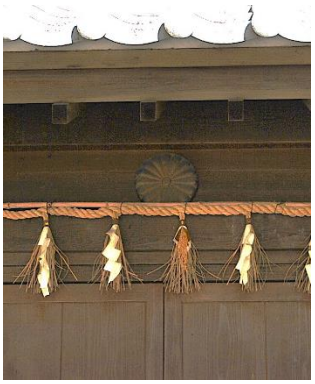
奉安殿について、できれば旧鳥居松小学校の記録を載せたかったが、それが入手できなかった。そこで、当時の学校では同じような風景があったはずであるので、ここには旧鷹来小学校の記録[4]を載せておく。

「明治の後半より御真影（天皇・皇后の写真）が下賜され、以来、学校で夫も大切なものとして、奉安殿に厳重に保管してあった。後、明治44年奉安殿が設けられ、御真影はここに保管されることになった。児童は、毎朝登校する時、必ず奉安殿の前に来て敬礼をしてから校舎に入った。

御真影は四大節（新年・紀元節・天長節・明治節）の式の時奉安殿から出されて式場に掲げられた。」

4 菊花紋章と「鳥」の紋章について

では、八田神明社の奉安殿にある菊花紋章と「鳥」の紋章は何なのか。勘の良い人はすでにご察しのことと思う。菊花紋章は、いわゆる「菊の御紋」と呼ばれるもので、正式には、「十六葉八重表菊」であることがわかった。これは天皇・皇室を象徴する紋章である。奉安殿ということで間違いないだろう。



奉安殿の菊花紋章

「鳥」の字の紋章

また、「鳥」の字の紋章は、旧鳥居松小学校の奉安殿であることから、校章なのではないかと考えた。そこで、鳥居松小学校のＨＰを調べてみた。残念ながら現在の鳥居松小学校のＨＰには掲載されていないようだが、Google で検索すると「鳥居松小学校　【校章の由来】」[5]というページがヒットした。間違いなく鳥居松小学校の校章ということがわかった。ただし、開校当初の校章は、「雪の結晶を外郭に中央にハート、それを貫いた二本の矢で形取られていました」とある。実は、多くの小学校では、戦前の勇ましい校章から平和国家日本にふさわしい校章に変えている。そう考えると、移築したときの鳥居松小学校の校章は前の校章ではなかったかと考えるのが妥当で、平成十七年（二〇〇五）大修繕のときに、現在の校章に換えたか、あるいは新たに付け加えた可能性がある。

これで冒頭の疑問は解決され、この論文はここで終わるはずだった。ところが、奉安殿についてインターネットで検索してみると、思わぬ記述を見つけた。

5 『松河戸町の沿革』には上条町の泰岳寺にあるという記述が

人間文化科学研究所のＨＰ『松河戸町の沿革』[6]の p44 に、次のようにある。

「泰岳寺(上条町)に旧鳥居松小学校の奉安殿が経蔵とし（ママ）移築されている。」

旧篠木小学校の奉安殿が退休寺(大泉寺町)の位牌堂として、旧小野小学校の奉安殿が小野社（松河戸町）の社殿として、移築されているという紹介とともに、旧鳥居松小学校の奉安殿がこの八田神明社ではなく、泰岳寺にあるというのだ。

旧篠木小学校の奉安殿も旧小野小学校の奉安殿も、どちらも奉安殿として残されておらず、他の建物として、つまり、転用、恐らく奉安殿とはわからないように偽装して残されたのだろう。これは、奉安殿を残すには隠さなければならなかったという世相がうかがえる。となると、この泰岳寺の経蔵として残したという記述は気になるところではある。

しかし、八田神明社にある奉安殿については、明確に「昭和 22 年（1947）夜行運搬され」と記述されていることから、間違いなくこれが旧鳥居松小学校の奉安殿と思われる。１つ気になるのは、現在の八田神明社の旧鳥居松小学校の奉安殿は、社殿と石碑を見る限り、篠木小学校や小野小学校の奉安殿のように偽装されたような痕跡や記録がないことである。ただし、移築したころは何かしらの偽装が行われたことは考えられるし、連合軍の占領政策が終了してから奉安殿であると世に明らかにした可能性はある。

ＨＰ『松河戸町の沿革』の管理責任者となっている長谷川浩氏は、私も若い頃大変お世話になった市内で有名な社会科の教員だった。ここに書いてあることは、何某かの経緯があったことは否定できない。そこで退休寺にＨＰ上から問い合わせをしてみたのだが返事はなかった。少なくとも寺としてはそのような把握はしていないと考えられる。

6 おわりに

今回は、見慣れない建物が八田神明社にあることに気がついたことから追究を始めた。その結果、旧鳥居松小学校の奉安殿であることがわかった。石板の記述にある「夜行運搬」を決行したのは、奉安殿の移築を隠すための手段だったのだろう。しかも、ここ八田神明社は旧鳥居松小学校からはかなり遠い。現在、八田町は柏原小学校の校区であり、柏原小学校は鳥居松小学校と勝川小学校から分離して開校したことから、終戦当時は鳥居松小学校の校区の端だったと思われる。直線距離でおよそ６㎞といったところだ。しかも、運んだのは「八田連区の有志」との記述になっている。

なぜ､そんなことが行われたかと言えば､ＧＨＱ(連合国軍最高司令官総司令部)が昭和 20 年(1945) 12 月 15 日に「神道指令」[7]を発したからだ。奉安殿は、旧鳥居松小学校のように、神社様式を模してつくられており、国民の精神生活上に大きな役割を果たしてきた御真影と教育勅語がこの奉安殿におさめられていたからである。日本政府にとって重要なのは御真影であり、それをいかに回収するかが関心事だった。一方、奉安殿の建設資金は住民の寄付金によるところも多く、住人にとって「崇敬ノ中心」として自治体の決議を経ていたところも少なくなかった。奉安殿はどうしてもその躯体の大きさから秘密裏に処分することは難しく、休校にして児童の目にふれないうちに解体撤去が行われたところが多かったようだ[8]。旧鳥居松小学校の奉安殿の八田神明社への移築はこうした時代のなかで行われたのだ。当時の八田の人たちの思いはどのようなものだったのだろうか。興味が尽きない。

令和８年（2026）１月 12 日

＜　参考文献　＞

[1]「奉安殿」『〔精選版〕日本国語大辞典　３巻』小学館　2006 年
[2]「教育勅語」名古屋市博物館の常設展フリールーム（令和 3 年）
[3]『小学校祝日大祭日儀式規定』官報第二千三百八十八號　明治二十四年六月十七日
文部大臣　伯爵大木喬任
「第一條　紀元節、天長節、元始祭、神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場に參集シテ左ノ儀式ヲ行フヘシ
一學校長、教員及生徒
天皇陛下及
皇后陛下ノ　御影ニ対シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ且
両陛下ノ萬歳ヲ奉祝ス
但未タ　御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ本文前段ノ式ヲ省ク
ニ學校長若クハ教員 教育ニ關スル　勅語ヲ奉讀ス
三學校長若クハ教員、恭シク教育ニ關スル　勅語ニ基キ　聖意ノ在ル所ヲ誨告シ又ハ
歴代天皇ノ　成德　鴻業ヲ敍シ若クハ祝日大祭日ノ由來ヲ敍スル等其祝日大祭日ニ相應スル演説ヲ爲シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養センコトヲ務ム
四學校長、教員及生徒、其祝日大祭日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス」

この条文や『鷹来小学校百年の歩み』にあるように、奉安殿は学校の施設の中で特別な施設であり、特に御真影は宮内省からの「貸与」であったため管理責任が問われた。明治 31 年（1989）3 月の長野県の上田學校女子部（上田尋常高等小学校）の火災で奉安殿も焼失し、校長の久米由太郎が自刃した事件が有名である。息子の久米正雄が、小説「父の死」を第四次『新思潮』の創刊号(大正 5 年)に発表している。以後、校長の焼死や自殺が続き、奉安殿は頑丈なつくりのものに変わっていった。自治体によっては役場に保管したところもあったようだ。昭和 10 年（1935）には福島県で御真影が盗難されて身代金が要求されるという恐喝事件も起きた。岩本努氏が『「御真影」に殉じた教師たち』の「はじめに」のなかで、このような特異な社会的責任のあり方について丸山真男が取り上げて論じていることを紹介し問題提起していることは、奉安殿のもう１つの歴史として心に留めておきたいものである。

[4]「奉安殿」『鷹来校百年の歩み』鷹来小学校創立百周年記念事業実行委員会　昭和 53 年
[5]「鳥居松小学校　【校章の由来】」
https://www.kasugai.ed.jp/kasugai23/download/document/144667
[6]「５小野社と顕彰活動」HP『松河戸町の沿革』長谷川浩　人間文化科学研究所
[7] 正式名を「国家神道、神社、神道に対する政府の保証、支援、保全、監督並びに弘布の禁止に関する件」とういう。これは政府宛ての「連合国軍最高司令官総司令部覚書」だった。
[8] 『「御真影」に殉じた教師たち』岩本努　大月書店　1989 年